

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300442		
法人名	有限会社 碧		
事業所名	グループホーム むつみ		
所在地	北海道川上郡標茶町旭2丁目4-19		
自己評価作成日	令和4年1月23日	評価結果市町村受理日	令和4年7月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=0174300442-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=0174300442-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和4年7月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が笑顔で安心して暮らせる様、職員同士で日々話し合いをして、より良いケアを目指しています。職員のほとんどが10年以上勤務している為、チームワークには自信があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームむつみは、町の中心部に位置した1ユニット9名の事業所です。職員のほとんどが勤続10年以上であり、職員間の連携がとれています。職員は事業所の理念を共有し、利用者が「生き生き」とした生活が送れるように実践に努めています。タブレット端末を導入し、リモートで面会できる環境を整えるなど、家族や地域とのつながりを維持できるように環境を整えています。地域包括支援センターと協力して困難事例への対応にあたるなど、役場や関係機関との協力体制を構築しています。病院の受診には職員が同行し、利用者の日常を医師に伝えています。日々の健康管理では、併設の通所介護事業所の看護師にアドバイスを求めることができます。食物繊維や乳製品を摂取することで、自然な排泄ができるように支援しています。感染症の蔓延下であっても事業所の庭で外気浴をしたり、ドライブに行くなど、事業所内に留まることなく、利用者の気分転換のためにも外出する機会を設けています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が「生き生き」とした生活がおくれる様、職員同士情報を日々共有する事を実践している。	毎月の会議で職員は理念を共有しています。管理者は職員に日々の支援の中で理念に基づいた支援のあり方について伝えています。利用者が「生き生き」とした生活が送れるように、職員は協力して実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、外部の方との交流ができなくなっている。	コロナ禍により中断していますが、保育園児が来訪するなど交流を行っていました。また、町の行事では町内会、高校生のボランティア部なども参加する花見に参加していました。今後も祭りが再開されれば参加可能な利用者と一緒に参加したいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で行っていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議がコロナ禍により出来ていない。書面にての開催でも良いのかと確認していく。	令和3年度の運営推進会議は8月に1回開催しています。コロナ禍のため、会議の招集が難しい状況が続いています。会議には、役場、地域包括支援センター、社協と地域食堂を運営しているNPO法人が参加しています。コロナ禍での事業所運営の様子や事故報告を行い、改善策についてアドバイスを受けています。	参加者を招集して行う運営推進会議が中断していますが、コロナの影響は今後も続く可能性があります。運営推進会議の主旨を確認し、事業所に必要な取組として早期に再開することを期待します。また、会議録についても家族や運営推進会議メンバーに送付して共有していくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、町の介護保険係や包括支援センターなどに相談し、問題解決に取り組んでいる。	利用者支援において、事業所だけで解決できないケースがある場合は、町の担当課に相談し、情報交換を行っています。利用が安心して生活できるよう、利用者と家族との信頼関係を重視しながら適切な役割分担を行って働き掛け解決に繋げています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて話合った内容を他の職員へも周知し、より良いケアにつなげている。	身体拘束適正化委員会を開催し、話し合いの内容を職員に伝えています。身体拘束につながらない支援のあり方について、職員間で共有しています。また、運営推進会議で検討の上、離脱防止のため玄関にセンサーを付けて外出の意向がある場合は同行するなど適切な対応ができるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに行けずにいるが、虐待がないよう職員のストレス軽減などヒヤリングのどの取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は町の権利擁護センターの運営会議委員となっており、学ぶ機会があるため、職員会議など通して他職員へ周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は御家族へ管理者が説明しており、納得が出来る説明をし、締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ過により、外部の方や御家族と直接意見が聞ける状況ではないが、電話などにて話があった場合は検討し反映出来るようにしている。	感染症の蔓延により、直接家族の意見を聞く機会が減少していますが、電話の際に意見を聞くように努めています。また、家族に利用者預り金の収支を送付し、状況について伝えるなど、家族が意見を表出しやすいようにしています。	感染症の蔓延もあり、従来行っていた花見会での家族意見の聴取が難しくなっています。これからの新しい環境に対応した、家族意見の聴取方法を検討し、運営に反映する取組を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、管理者が個別に職員から話を聞くようにしている。	管理者は毎月の職員会議で職員意見を聞くだけでなく、個別に意見を聞く機会を設けています。職員から毎月3日のリフレッシュ休暇取得の提案があり、運営に反映しました。年5日の有給休暇もシフトを調整し取得しています。また、休日の増加に対応できるよう、職員の募集も予定しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気持ち良く働けて行ける様、職員の希望休や有休の取得など積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外への研修はなかなか参加出来ていないが、普段の業務の中で、介護技術向上のため職員同士モデルとなってトレーニングするとこもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍により、交流が出来ていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早くグループホームの生活に慣れて頂ける様、個別に対応する時間を多めに作り対応しれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、御家族や御本人と面談を毎回行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関の方に話を聞いたり、入所前面談にて、御家族や御本人の思いや要望を聞き、想いに添えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、色々な経験や思いなどを積極的に出してもらおうようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側だけでなく、御家族も一緒に課題を把握して御本人により良いケアを考えていっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍によりなかなか直接会ったりは出来ませんが、リモートなど使い支援をしている。	感染症の蔓延により、従来のような支援が難しくなっていますが、併設の通所介護事業所を利用者の友人や知人が利用していることもあり、時折通所介護事業所を訪問したり、定期通院の待合室で友人や知人と会うなど、日常生活の中で馴染みの人との接点を持てるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様がいる所へ職員が行き、会話を盛り上げたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方の御家族から相談や近況報告など受ける事が、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人が今まで生活してきた色々な経緯を把握し、日頃何気ない話からも情報を取り入れてより良い支援をするようにしている。	利用者の希望や意向の把握に努めると共に、利用者のこれまでの生活についてアセスメントを行い、利用者本位となるように検討しています。今までの生活と同じように入居後も新聞や週刊誌の購読を継続している利用者もいます。意思疎通が難しい場合は医療とも連携して利用者にとって安楽な生活の実現に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様からは、日頃のコミュニケーションなどを通して、今までの暮らし方などを聞いたり、御家族様からも情報をもらい、積極的に把握出来る様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員がそれぞれの視点から利用者様を観察し、情報共有に日々努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行う職員会議の中で、職員全員で計画についてを話し合い意見を言い、計画作成がまわっている。	利用者ごとの担当制ではなく、職員全員が利用者の状況をモニタリングし、毎月の会議で計画内容について検討しています。それをもとに計画作成者が利用者のこれまでの習慣の継続支援など、一人ひとりの利用者の現状に合わせた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「なんか変…」などどんな気づきも大切に、支援経過や24時間のチェックシート・申し送りノートに記入し、職員全員が把握出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町などにも協力体制を整えてもらいながら、さまざまな支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域との交流が難しい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は職員が同行し、主治医から話を聞いたり、入院の際はケースワーカーに話を聞いたりしており、情報を交換しながら進めている。	利用者のほとんどが町立病院をかかりつけ医としています。病院の受診には職員が同行し、日々の状態について医師に伝えていきます。また、利用者の健康管理について、併設の通所介護事業所の看護師からアドバイス受けることができます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	階下のデイサービスの看護師と連携し、個別に処置をお願いしたり相談したりする時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーや退院調整看護師と連携し、意向も伝え支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所した時や必要に応じて随時説明を行い、御家族様と一緒に考え、関係機関に協力してもらいながら支援している。	入居時に重度化や終末期の対応について、事業所の方針を利用者や家族に説明しています。地域の医療体制も鑑み、看取りは行っていません。重度化の際には利用者の状況に合わせて、医療機関との連携を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議や、日頃の業務の際になど手順や連絡先の確認など行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実体験を元に関係機関と事務所内で協議をし、より良い方法を協議している。	事業所は川沿いにあり、過去に避難指示が出るなど、実際の避難経験に基づいて災害への対策を行っています。避難計画について役場などの関係機関と協議を行い、より実態に即した計画となるように検討をすすめています。	これまでの避難経験から得られた避難指示のあり方や避難場所、避難方法などの問題点について、早期に役場と調整を行い、実効性のあつた災害対策を策定することを期待します。また、役所の指示だけでなく、事業所独自の避難判断基準の策定も合わせて検討することが望まれます。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で御利用者様の事を話す時は、実名ではなく、呼び方を変えている。	利用者の耳に入るような状況での職員間の打ち合わせでは、利用者の名前ではなく、固有の符丁で伝える等、利用者のプライバシーに配慮しています。また、利用者の尊厳を損ねるような言葉遣いは、職員間で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様と個別に話す時間を作り、今の気持ちなど聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員同士日頃より意見交換を行っており、御利用者様へより良いケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様の嗜好等を把握し、御本人から何か訴えがあった時など柔軟に対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在生活している御利用者様のADL状態が落ちてきており、食事の準備や後片づけ等一緒に出来ていませんが、行事食や誕生日の時などは好きな物を提供したり、食事形態を変えたりしている。	季節感や彩り、品数に気を配り、利用者の好みや希望を聞き、献立を決めています。誕生会などではメニューのリクエストに応じるなど、楽しい食事ができるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間チェックシートにて摂取量がわかるようにしており、職員間で情報共有している。栄養状態等に応じて個別にケアをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。その際に口腔内の汚れなどを把握して、嚥下などの評価につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	御利用者様の排泄パターンを職員全員で把握・共有しており、時間ごとのトイレ誘導に努めている。	食物繊維や乳製品を摂取することで、自然な排泄ができるように支援しています。また、利用者ごとに排泄記録をつけ、時間を決めて声掛けを行うなど、トイレでの自立排泄につなげています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品、最近ではプルーンを提供し排便を促したりしている。また、主治医より許可をもらい御本人の負担にならない様な下剤の管理もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	御利用者様の希望に沿った入浴はなかなか出来ないのが現状。「今日は入りたくない」などの訴えには柔軟に答えており、日にちをずらしたりで対応している。	週2回の入浴を基本としていますが、入浴に拒否のある利用者には無理強いせず、入浴日をずらすなど柔軟に対応しています。異性介助については入居時に説明し、同意を得ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前は気持ちが落ち着く様ゆったりと過ごして頂き、温かい飲み物を提供したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬はその効果を十分に把握し、疑問や相談はかかりつけの薬剤師に聞いています。受診時同行の際には、主治医とも良く相談をあい、何かの変化などがあつた際は伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍により、なかなか外へ出での気分転換は難しくなっている。ですが、地域食堂からテイクアウトで昼食を頼んでみたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	上記同様に外出が難しいが、車から下りないがドライブへ出かけたたりしている。	感染症の蔓延もあり、買い物や散歩など日常的な外出が難しくなっていますが、事業所の庭で外気浴をしたり、ドライブに行く等、事業所内に留まることなく、外出する機会を設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない御利用者様が多いのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを頻回にしている御利用者様が現在いらっしゃいます。御家族様より電話があったりもしますが、希望する御利用者様には、事業所の電話を使用して交流がもてるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのあちこちに、季節感がわかるような飾りつけをしている。自室がわからなくならないように、顔写真やお名前を書いた紙が貼ってある。	夏でも快適に過ごせるように、居間に昨年クーラーを設置しました。また、利用者全員が心地良く居間で過ごせるように、テレビのボリュームが過度に大きくならないように気をつけたり、利用者間の関係を考慮して席を決めるなどの工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子の設置の工夫や、仲の良い御利用者様同士が互いの部屋でおしゃべりが出来る様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の使い慣れた家具や洋服などを使用してもらっている。	利用者が安心して一人になれる空間になるように、入居の際に本人が馴染みのある家具や愛着のある物を持参してもらえるように家族に伝えていきます。本人の体感温度を考慮して、快適に暮らせるように部屋ごとに温度を調整しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所がわかりやすい様、「お風呂」「便所」などと掲示の工夫をしている。		